

サメガレイ太平洋北部系群に関する 資源管理の基本的な考え方

令和4年3月17日(木)

第6回資源管理手法検討部会
～サメガレイ太平洋北部系群～

水産庁

1. 資源評価の結果について

2. 関係地域の現状について

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見

(2) 各論に関する御意見

- ① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認
- ② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項
- ③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項
- ④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向
- ⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)
- ⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討
- ⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項
- ⑧ 管理対象とする範囲(大臣管理区分、都道府県とその漁業種類)

(3) そのほかの御意見

(4) 御意見や論点のまとめ(案)

4. 今後について

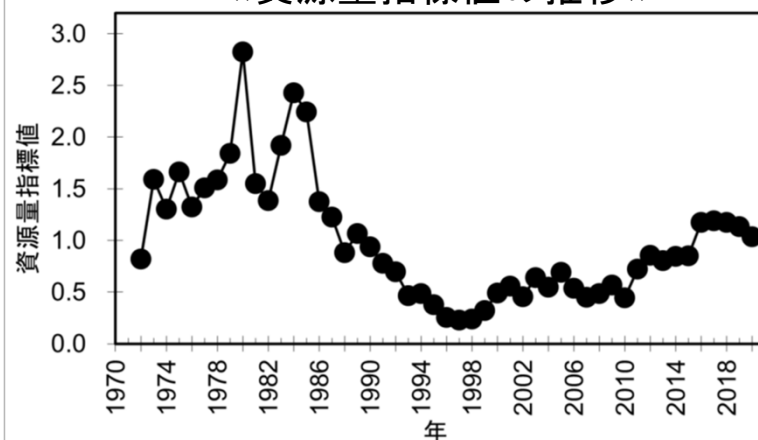
1. 資源評価の結果について

- 全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降の漁獲量は200～250トン前後で推移している。2011年には157トンまで減少したが、その後は200トン前後で推移している。2020年は218トンであった。
- 金華山海区以南における沖底の標準化CPUEを資源量指標値(平均値を1とした)に用いた。1970～1980年代は平均値以上で推移していたが、その後減少し、1990～2015年は平均値以下となった。2011年以降は回復し、2016年以降は平均値以上となり、2020年は1.04であった。

《漁獲量の推移》



《資源量指標値の推移》



漁獲量(2020年)・・・ 218トン

案

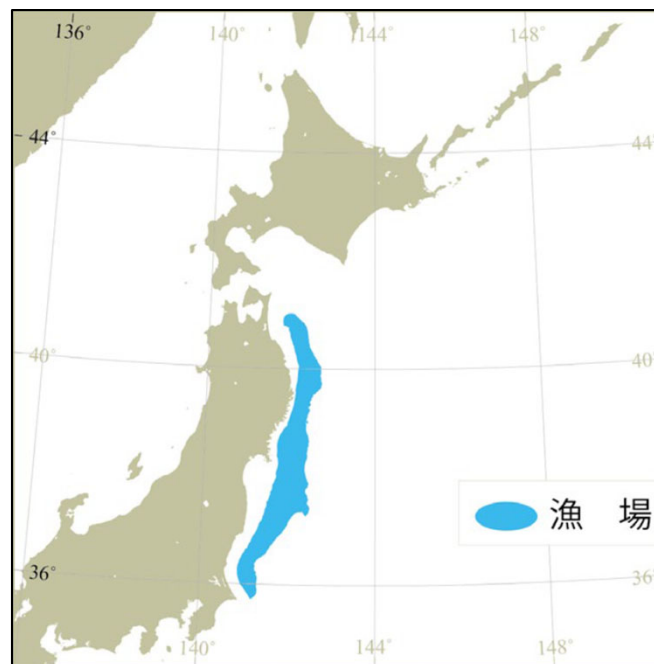
	資源量指標値 (kg/網)	資源量水準	漁獲量を増減 させる係数
目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) ≡回復・維持する目標となる資源水準の値	1.498	80%	1.000
限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) ≡下回ってはいけない資源水準の値	1.089	56%	0.887
現在の値(2020年)	1.037	52%	0.865

- 資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。
- 2020年の資源量水準は52%であることから、2022年の予測漁獲量は200トンと算出される。

2. 関係地域の現状について ～まとめ～

- 水深150～1,000mの砂泥底に分布する。本資源は主に青森県から茨城県沖で底びき網によって漁獲されてる。
- 本系群は、青森県から茨城県に至る太平洋沿岸において、沖合底びき網で90%を漁獲し、残りを各県の小型底びき網、刺網、延縄等で漁獲されている。

《分布図》



《参考：漁獲シェア表》

	3 か年平均					5 か年平均		
	H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1	H25-H29	H26-H30	H27-R1
大臣管理分合計	91.7%	90.2%	90.2%	90.5%	91.9%	90.7%	91.2%	90.8%
沖合底びき網	91.7%	90.2%	90.2%	90.5%	91.9%	90.7%	91.2%	90.8%
その他の大臣管理区分	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知事管理分合計	8.3%	9.8%	9.8%	9.5%	8.1%	9.3%	8.8%	9.2%
青森	3.9%	3.4%	2.9%	2.5%	2.7%	3.4%	3.0%	2.8%
岩手	2.8%	3.0%	3.0%	2.4%	1.9%	2.9%	2.5%	2.5%
宮城	0.4%	0.4%	0.7%	1.1%	1.0%	0.6%	0.6%	0.9%
福島	0.0%	1.7%	1.8%	1.8%	0.1%	1.1%	1.1%	1.1%
茨城	1.2%	1.4%	1.4%	1.8%	2.3%	1.3%	1.6%	2.0%

※ 水産庁が現時点で入手したデータに基づいて暫定的に計算したものであり、今後のデータ入手や、計算の見直しによってシェアが変更となる可能性があります。

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

2. 関係地域の現状について ～沖合底びき網～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴

- 沖合底びき網漁業において、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県で漁獲され、それぞれの地区を基地とする沖合底びき網の総漁獲量の0.2～2%、水揚金額の0.2～1%程度を占める。
- 12月～翌6月に漁獲。漁獲のほとんどがキチジ、イラコアナゴ等を狙った深場操業の際の混獲。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

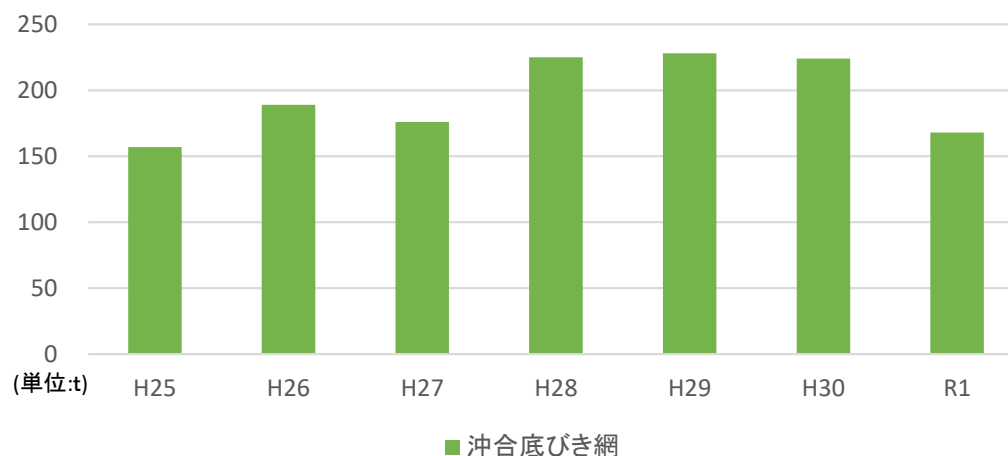
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
91.7%	90.2%	90.2%	90.5%	91.9%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
90.7%	91.2%	90.8%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
沖合底びき網	157	189	176	225	228	224	168

(単位:t 資源評価書より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 7月～8月が禁漁となっている。

2. 関係地域の現状について ～青森県(太平洋北)～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 近年の青森県における本種の漁獲量は4～9トンと僅かであり、情報が少ない。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

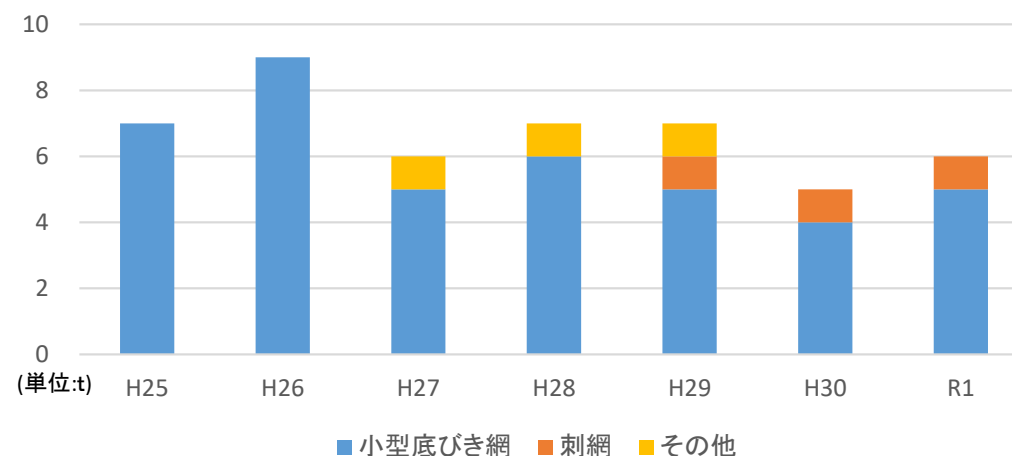
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
3.9%	3.4%	2.9%	2.5%	2.7%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
3.4%	3.0%	2.8%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型底びき網	7	9	5	6	5	4	5
刺網	0	0	0	0	1	1	1
その他	0	0	1	1	1	0	0

(単位:t 資源評価書より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 広域資源管理措置(保護区の設定)。

2. 関係地域の現状について ～岩手県～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 底刺網漁業により約5割、はえ縄漁業により約4割を漁獲。
- 底刺網漁業は2～5月、はえ縄漁業は6～11月に漁獲が集中。
- 平成22年以後、漁獲量が増加したが、平成30年から再び減少し、近年は横ばい傾向。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

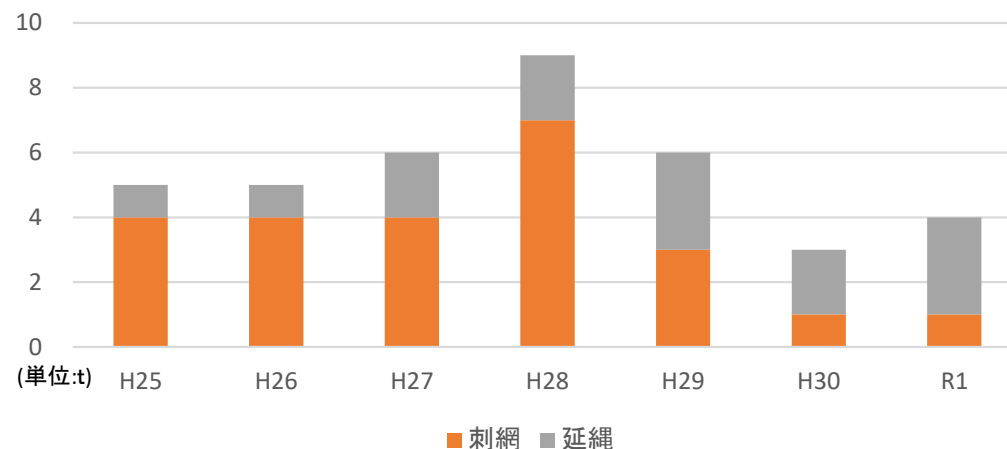
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
2.8%	3.0%	3.0%	2.4%	1.9%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
2.9%	2.5%	2.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
刺網	4	4	4	7	3	1	1
延縄	1	1	2	2	3	2	3

(単位:t 資源評価書より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特になし。

2. 関係地域の現状について ～宮城県～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 金華山沖が東北地方太平洋側では非常に重要な漁場となっており、本県は水揚量が多いものの主に沖合底びき網による漁獲であることから、知事許可漁業での漁獲は多くはないが、小型底びきや刺網により漁獲される。
- サメガレイは、本県で古くから食用として一般的で、加工原料としても重要な魚種である。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

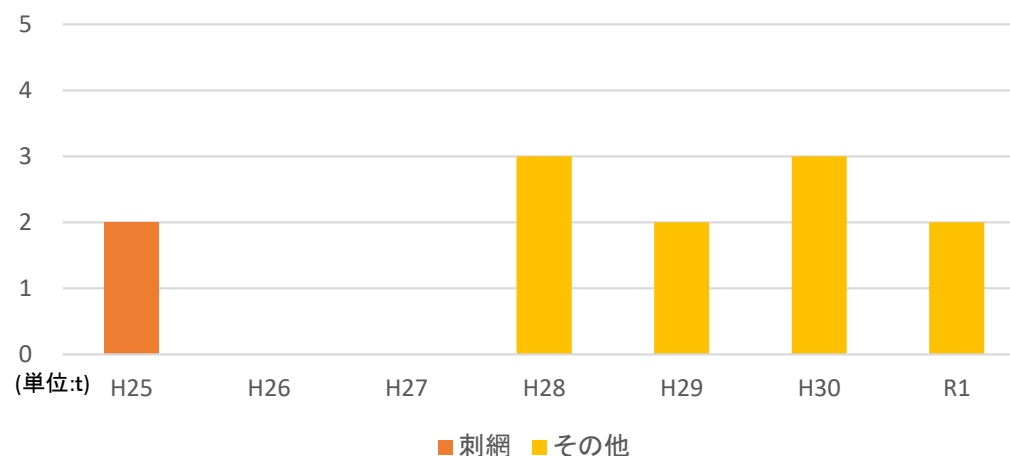
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.4%	0.4%	0.7%	1.1%	1.0%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.6%	0.6%	0.9%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
刺網	2	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3	2	3	2

(単位:t 資源評価書より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特になし。

2. 関係地域の現状について ～福島県～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ほとんどが小型機船底びき網で漁獲される。
- 小型機船底びき網では、浅所に分布する3～5月にかけて漁獲される。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

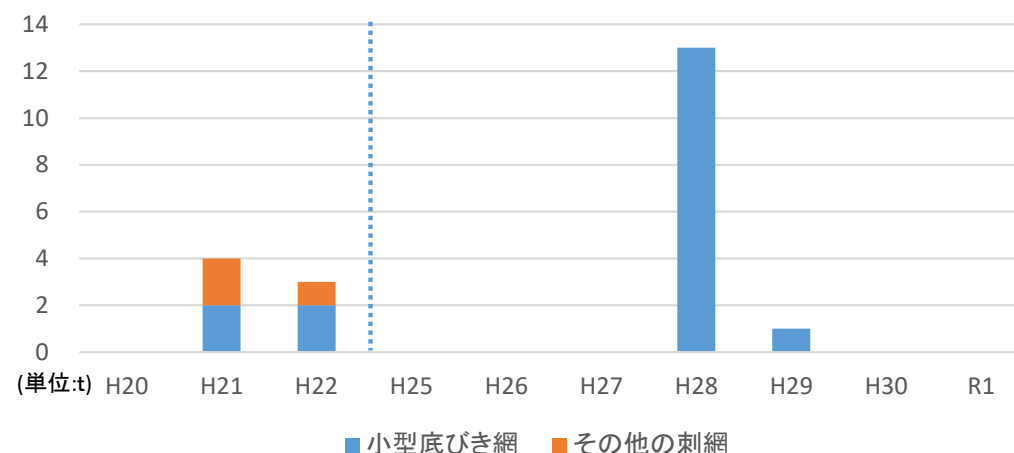
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	1.7%	1.8%	1.8%	0.1%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
1.1%	1.1%	1.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H20	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型底びき網	0	2	2	0	0	0	13	1	0	0
その他の刺網	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 資源評価書より ※ H20～22は福島県海面漁業漁獲高統計)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特になし。

2. 関係地域の現状について ～茨城県～

サメガレイを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 主に沖合底びき網漁業で漁獲されるが、茨城県においては、沖合底びき網漁船(19t型)と小型機船底びき網漁船(14.9t型)の操業水深は類似することから、小型機船底びき網でも漁獲される。知事許可漁業においては、小型機船底びき網漁業でほぼ100%漁獲される。
- 沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書を分析した研究では、平成15～17年頃にはサメガレイの産卵期から産卵期後の2～4月に茨城県沖の水深500～1,000mに集群しているところを集中的に漁獲されていたことが報告されている(服部ほか 2008)。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

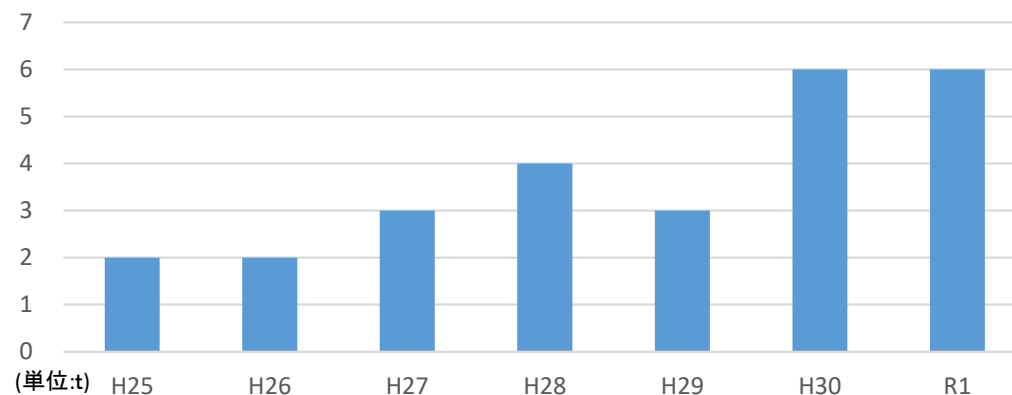
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
1.2%	1.4%	1.4%	1.8%	2.3%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
1.3%	1.6%	2.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型底びき網	2	2	3	4	3	6	6

(単位:t 資源評価書より)



■ 小型底びき網

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 小型機船底びき網における漁具規制(複葉型オッターボードの使用禁止等)及び休漁日の設定。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (1/4)

● 資源管理・資源評価

- 国に対しては、まずは現場に足を運び、漁業者に対する十分かつ丁寧な説明を行うとともに、現場の漁業者の理解と納得を得た上で、慎重に検討いただきたい。
- どういった手法で評価を行っているのか、漁業者が納得できるように、わかりやすい説明を求める。
- 資源管理の推進に当たっては当該資源を利用する漁業関係者は等しく取り組む必要あり。
- 近年の漁獲量は我が国の総漁獲量の0.008%程度と極めて小さく、国として数量管理を行う必然性について疑念。
- 国、都道府県、漁協・漁連等の業界団体の予算や人的資源は限られており、優先的に取組まなければならない仕事他に沢山ある中で、当該資源を膨大な労力をかけてTAC管理する意味が分からない。
- 関係者の長年の努力により地域全体の漁業がバランス良く成り立っている状況がある中で、新たな資源管理の導入により、こういった秩序が崩れてしまうことを懸念。
- 通年同じ魚種を狙っているわけではなく、季節や来遊に応じて様々な魚種を漁獲しているため、単純に漁獲量のデータが資源状況を推定する指標になるのか疑問。
- 市場において、銘柄別の仕分けが十分にされないケースも多いため、正確な数量把握が難しい状況ではないか。

● 底びき網漁業

- 厳しい経営環境の中、既に漁獲努力量の減少が図られてきた状況の中で新たに規制が加わることに強く懸念。
- 漁具・漁法の特性上、特定の魚種を選択的に漁獲することが難しく、意図せずに混獲してしまいTAC数量の超過が危惧される。仮に、混獲された魚を放流するにしても、生きたまま再放流するのは不可能であるため、洋上投棄が問題になることも考えられる。また、混獲を避けるための操業海域や曳網の水深の変更、休漁は漁業収入の低下を招きかねない。
- 混獲による数量超過を避けるため、操業そのものを控えざるを得ない等支障が出ることを強く懸念。混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、本資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (2/4)

参考人からの御意見

御意見の内容

銚子市漁業協同組合
代表理事組合長

我々が営む銚子地区の沖合底びき網漁業では、ヤリイカを中心に多種多様な魚種を漁獲しています。今回、その中のヤナギムシガレイとサメガレイの2魚種がTAC管理の候補魚種になっていることに関し沖合底びき網漁業者から様々な疑問の声があることから、結論ありきで進めるのではなく、現場の漁業者の理解と納得を得た上で、慎重に検討するよう求めます。

【沖合底びき網漁船におけるTAC管理の必要性について】

銚子地区の沖合底びき網漁船は、昭和 38 年には40隻ありましたが、経営悪化により減少を続け、現在では5隻のみとなっています。また、平成 19 年には経営合理化のため、4経営体を1つにした銚子沖合漁業生産組合を設立するとともに、小型船への転換を進め、現在は4隻が 19 トン船、1隻が 32 トン船による操業を行っています。このように、厳しい経営環境の中、限られた水産資源を持続的に活用し、経営を維持していくため、既に漁獲努力量の減少が図られてきたところであり、そういった状況の中で新たに規制が加わることに強く懸念しているところです。

また、当該漁業で漁獲される魚種は銚子地区だけでも 120種類以上にのぼり、ヤナギムシガレイとサメガレイはアナゴ狙いの操業の際の混獲魚種となっています。この2魚種にTAC制度を導入した場合、沖合底びき網漁業の漁具・漁法の特性上、特定の魚種を選択的に漁獲することが難しく、意図せずに混獲してしまいTAC数量の超過が危惧されます。仮に、数量が超過しないよう混獲された魚を放流するにしても、生きたまま再放流するのは不可能であるため、洋上投棄が問題になることも考えられます。また、混獲を避けるために操業海域や曳網の水深を変更すること、さらには休漁することは漁業収入の低下を招きかねないと考えています。

さらに、操業する海域は沿岸から沖合にかけて様々な漁業が営まれているため、過去に長い年月をかけて操業調整が図られてきたところであり、沖合底びき網漁業としても自分たちの利益だけを求めるのではなく、沿岸漁業の重要資源を対象とした操業を避けるなど、他の漁業に配慮した操業を行ってきました。この結果、例えば、銚子市外川地区のキンメダイ釣り漁業は適切な資源管理を実施するとともに、ブランド化等に取り組む、地域を代表する水産資源としての地位を確立しています。このように、関係者の長年の努力により地域全体の漁業がバランス良く成り立っている状況がある中で、敢えてTAC管理を導入することの必要性に疑問を感じているところです。

漁業構造のバランスが崩れ、結果的に日本の漁業の良さでもある、漁業と地域の結びつきや、漁法・魚種の多様性が失われるのではないかと懸念しています。

【資源評価について】

資源評価は漁獲情報を主な情報源として導き出されていると聞いていますが、沖合底びき網漁業の場合、通年同じ魚種を狙っているわけではなく、季節や来遊に応じて様々な魚種を漁獲しているため、単純に漁獲量のデータが資源状況を推定する指標になるのかどうか疑問です。また、市場においても漁獲物の状況によっては銘柄別の仕分けが十分にされないケースも多いため、正確な数量把握が難しい状況ではないかと推察されます。

サメガレイについては、水深800～1,100mの深場が漁場になりますが、漁船の小型化で操業できないことにより漁獲量が下がっているため、単純に漁獲量を資源量の指標とすることはできないと考えます。

これらの点に関しては、こういった手法で評価を行っているのか、漁業者が納得できるように、わかりやすい説明を求めます。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (3/4)

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	【TAC魚種拡大に関する国の進め方について】 当該魚種に限ったことではありませんが、既にTAC魚種拡大に向けたスケジュールが公表されているなど、現場の漁業者の意見が聞かれることなく国において話が進められてきたことに不信感を感じます。当該魚種がTAC管理の候補となっている理由や、仮にTAC魚種に指定された場合に、どのような影響があるのかについて、国から十分な説明は受けておらず、このまま結論ありきで話が進んでいくことを心配しています。 国に対しては、まずは現場に足を運び、漁業者に対する十分かつ丁寧な説明を行うとともに、漁業者の理解と協力を得た上でなければ進めないよう求めます。
全国底曳網漁業連合会 会長理事	沖合底びき網漁業での漁獲のほとんどが混獲によるものであることから、数量管理となった場合、混獲による数量超過を避けるため、操業そのものを控えざるを得ない等支障が出ること、さらに、当該資源を漁獲する福島県は東日本大震災による被災から通常操業へ戻る復興途上であり、数量管理の導入によって復興が妨げられることを強く懸念。 このため、まずは混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、当該資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。 また、資源管理の推進に当たっては当該資源を利用する漁業関係者は等しく取り組むことが必要。 当該資源について沖合底びき網漁業における操業をみると、沖合底びき網漁業での漁獲割合は90.3%程度(小型底びき網5.9%、刺し網1.0%、はえ縄1.6%、定置0%、その他1.0%)だが、太平洋北部海域での操業で混獲(それぞれの地区を基地とする沖合底びき網の総漁獲量の0.2～2%、水揚げ金額の0.2～1%程度)として採捕されている実態。 また、当該資源の近年の漁獲量は186トン程度、我が国の総漁獲量の0.008%程度と極めて小さく、国として数量管理を行う必然性について疑念。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	当組合は、福島県と茨城県との県境に位置し、サメガレイを対象とし、沖合底びき網漁業や小型機船底びき網漁業が営まれている。自身も沖合底びき網漁業を営んでおり、茨城県底曳網漁業協議会員として、旧太平洋北部沖合性カレイ類資源回復計画等資源管理に取り組んで来た。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (4/4)

意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	千葉県では、銚子地区の沖合底びき網漁業によりヤナギムシガレイ、サメガレイを漁獲しています。関係する沖合底びき網漁業者からは、TAC管理を行う必要性や資源評価への疑問、また、このままTAC管理を前提とした検討が進められていくことに対しての疑問の声があることから、結論ありきで進めるのではなく、現場の漁業者の理解と納得を得た上で、慎重に検討するよう求めます。 特に、国はTAC魚種拡大にあたり「漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映し、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進める。」としていますが、この部分は特に徹底するよう求めます。 また、本県の沿岸、沖合では様々な漁業が営まれており、公的な規制の他に、沖合漁業と沿岸漁業との民間協定をはじめ、地区の申し合わせ事項などにより、操業秩序が維持されています。こういったルールは関係者が長い年月をかけて築いてきたものですが、新たな資源管理の導入により、こういった秩序が崩れてしまうことを懸念しています。 また、国、都道府県、漁協・漁連等の業界団体の予算や人的資源は限られています。資源管理に限らず水産業に係る課題が山積しており、優先的に取組まなければならない仕事他に沢山ある中で、混獲魚種であるこの2魚種を膨大な労力をかけてTAC管理する意味が分かりません。

3. (2) 各論に関する御意見

①検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認

- 現状の漁獲報告の収集体制
 - 【茨城県】現在の漁獲情報収集システムで問題ない。
 - 【千葉県】現状では漁協職員の地道な集計作業に頼らざるをえない。
- その他
 - 全国的に漁獲報告システムの整備の目処が立った段階で、TAC管理導入の可否を検討すべき。
 - 漁業者、漁協職員の事務負担が増大し、漁協職員も人手不足の中で、TAC導入は慎重に検討すべき。
 - 水産行政職員の事務量が増大し、人員も削減されている中、管理に係る事務対応が可能なのか。
 - 現在、国が導入を進めているシステムは、リアルタイムなTAC報告に対応した仕様になっていない。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	全国的に漁獲報告システムの整備の目処が立った段階で、TAC管理導入の可否を検討すべきではないかと考えます。システムが未整備の段階で無理にTAC管理を導入すれば、漁協職員や漁業者の事務負担増大を招くだけです。クロマグロの管理だけでも職員が手一杯の状態であるのに、魚種が増えた場合に対応が困難であり、また、TAC管理に係る水産庁や都道府県水産部局の事務量の増大も容易に想定されますが、対応できるのでしょうか。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	現在の茨城県で構築している漁獲情報収集システム(市場水揚げデータを県水産試験場を通じ電子的に収集するシステム)で問題ない。
千葉県漁業協同組合 連合会	漁獲報告システムの整備は短期間で容易にできるものではなく、現状では漁協職員の地道な集計作業に頼らざるをえません。各漁協とも人手不足の中、事務負担を増加させてまでTAC管理を導入する必要性については慎重に検討する必要があると考えます。また、国や県においても、事務担当者の負担は相当大きいと考えられますが、水産行政に係る人員が減り続けている中で、しっかりとした管理が可能なのか疑問です。なお、現在、国が導入を進めているシステムは、リアルタイムなTAC報告に対応した仕様になっていません。漁獲報告を怠った場合に漁業法上で罰則も存在することから、拙速なTAC管理の導入は避けるべきと考えます。

3. (2) 各論に関する御意見

②資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項

- そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはない考える。
- 福島第一原子力発電所事故の影響が未だ残る海域での漁業実態を十分考慮のうえ、資源管理にかかる様々な事項を検討願いたい。
- 潮流により漁獲が影響を受けやすく、過去の漁獲実績だけで管理することは難しい。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはないと考えます。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	本県沖の操業状況は、平成23年の福島第一原子力発電所の事故をきっかけに大きく変わってしまい、現在もその風評被害については、完全に払しょくしたとは言えず、事故以前と比較し完全な操業回復には至っていない。それら事情を鑑み、漁獲可能量の設定等に当たっては、原発事故以前の10年間又は過去の最盛期のデータを基に算定するなどし、検討願いたい。 また、サメガレイについては、潮流の影響を受けやすい魚種であることから、本県沖の漁獲はその年の海況による影響を受けやすく、一概に過去の漁獲実績だけでは、漁獲可能量の設定は難しいと考える。 例えば、サメガレイは、近年増えている印象を受けるが、一方でこれから資源として期待できると思っている、過去の実績において、漁獲可能量の上限が設定されてしまうと増えた資源を有効活用できなくなってしまう。
千葉県漁業協同組合 連合会	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはないと考えます。

3. (2) 各論に関する御意見

③検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

- そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはない考える。
- 福島第一原子力発電所事故の影響が未だ残る海域での漁業実態を十分考慮のうえ、資源管理にかかる様々な事項を検討願いたい。
- 潮流により漁獲が影響を受けやすく、漁獲可能量の設定により資源の有効活用できなくなってしまう。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま漁獲シナリオを論じる段階にはないと考えます。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	3. (2)②に同じ。
千葉県漁業協同組合 連合会	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはないと考えます。

3. (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向

- 課題
 - 漁法の特性上、混獲による漁獲の回避が難しいため数量管理等は馴染まない。
 - 数量管理を強いられることは、後継者問題等多くの課題を抱える沿岸漁業者にとっては、経済的な不安を感じる。
- 対応方向
 - 「数量管理を実施しない」ことも視野に入れて検討すべき。
 - まずは混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、当該資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。
 - 福島県においては、本格操業が始まったばかりであることを考慮し、震災前の数量を基準にして欲しい。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	3. (1)に記載のとおり、そもそも数量管理が適切かどうか疑問です。対応方向は「数量管理を実施しない」ことも視野に入れて検討すべきです。
全国底曳網漁業連合会 会長理事	3. (1)のとおり
意見表明者の御意見	御意見の内容
福島県水産海洋研究センター	当県においては、長期わたる操業自粛を経令和3年4月から本格的な操業に向け、操業拡大中であることを考慮し、震災前の漁獲量を基準としたTAC管理が必要。
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	3. (2)②に同じ
千葉県漁業協同組合 連合会	3. (1)に記載のとおり、そもそも数量管理が適切かどうか疑問です。対応方向は「数量管理を実施しない」ことも視野に入れて検討すべきです。

3. (2) 各論に関する御意見

⑤数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）

- 資源管理措置

- 【千葉県】漁獲努力量の減少、沖合漁業と沿岸漁業の操業調整。
- 【全底連】沖合底びき網漁業においては7月～8月を禁漁。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	3. (1)に記載のとおり、既に漁獲努力量の削減に取り組んできました。
全国底曳網漁業連合会 会長理事	沖合底びき網漁業においては7月～8月が禁漁となっている。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	特になし。
千葉県漁業協同組合 連合会	参考人の銚子市漁業協同組合代表理事組合長の意見書に記載のあるとおり、銚子地区の沖合底びき網漁業は既に漁獲努力量の削減に取り組んできたところです。

3. (2) 各論に関する御意見

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

- 地域
 - 【千葉県】太平洋北部地区
- 漁業種類・関係者等
 - 【千葉県】沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業、加工業者、仲買業者、市場関係者(産地、消費地)、その他関連産業
 - 【全底連】青森県(太平洋)から千葉県における沖合底びき網漁業者のほか、太平洋北部の沿岸漁業に関係する漁業者、所属漁協、市場、流通関係者
 - 【茨城県】茨城県底曳網漁業協議会

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	地域:太平洋北部地区 漁業種類:沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業 関係者等:加工業者、仲買業者、市場関係者(産地、消費地)、その他関連産業
全国底曳網漁業連合会 会長理事	青森県(太平洋)から千葉県における沖合底びき網漁業者は勿論のこと、当該資源は太平洋北部の沿岸漁業においても利用されている資源であることから関係する漁業者、所属漁協、市場、流通関係者。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	茨城県底曳網漁業協議会
千葉県漁業協同組合 連合会	地域:太平洋北部地区 漁業種類:沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業 関係者等:加工業者、仲買業者、市場関係者(産地、消費地)、その他関連産業

3. (2) 各論に関する御意見

⑦ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項

- 関係者へ国から十分な説明を行い、理解と納得を得た上でステークホルダー会合に進むべき。
- 混獲による数量超過を避けるため、操業そのものを控えざるを得ない等支障が出ること、さらに、福島県は東日本大震災による被災から通常操業へ戻る復興途上であり、数量管理の導入によって復興が妨げられることを強く懸念。このため、まずは混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、本資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。
- ABC算定のための基本指針の変更により、前年度からABCが大幅に減少した魚種については、ステークホルダーに対するきめ細かい説明が必要。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	この設問はステークホルダー会合を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもステークホルダー会合へ進んでしまうことが適切なのか疑問です。まずは、上記⑥の関係者へ国から十分な説明を行い、理解と納得を得た上でステークホルダー会合に進むべきです。
全国底曳網漁業連合会 会長理事	3.(1)の課題を整理し漁業者の理解を得た上でステークホルダー会合を開催すべきでは。
意見表明者の御意見	御意見の内容
福島県水産海洋研究センター	ヤナギムシガレイ等、ABC 算定のための基本指針の変更により、前年度からABCが大幅に減少した魚種については、ステークホルダーに対するきめ細かい説明が必要。
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	特になし。
千葉県漁業協同組合 連合会	この設問はステークホルダー会合を実施することを前提としたものであると考えられ、そもそもステークホルダー会合へ進んでしまうことが適切なのか疑問である。まずは、上記⑥の関係者へ国から十分な説明を行い、理解と納得を得た上でステークホルダー会合に進むべきである。

3. (2) 各論に関する御意見

⑧管理対象とする範囲（大臣管理区分、都道府県とその漁業種類）

- 管理対象とする範囲

- 沖合底びき網漁業は、大臣許可につき県域を跨いでの操業が可能であることから、大臣管理区分の漁獲数量管理も県域で区別すべきだと考える。

- その他

- そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま資源管理目標の導入を論じる段階にはないと思う。
- 資源を利用している漁業者間に不公平感が生じないようにすること。
- 沖底と小底の間において、操業形態や漁獲海域、対象種に以前ほど大きな隔たりが無くなってきているため、大臣管理区分と知事管理区分とで、異なる漁業管理を行うことについて、漁業者の理解を得るのが難しいと感じる。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま管理対象とする範囲を論じる段階にはないと考えます。
全国底曳網漁業連合会 会長理事	資源を利用している漁業者間に不公平感が生じないようにすること。
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	県内の底びき船は、沖底が19t型、小底が14.9t型が主流となっており、両漁業の間において、操業形態や漁獲海域、対象種に以前ほど大きな隔たりが無くなってきている。当組合においてもそれらの乖離は小さくなっており、同一漁協内で同一の漁業種類である底びき網漁業において、大臣管理区分と知事管理区分とで、異なる漁業管理を行うことについて、漁業者の理解を得るのが難しいと感じる部分がある。
千葉県漁業協同組合 連合会	この設問はTAC管理を実施することを前提としたものであると考えられますが、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、いま管理対象とする範囲を論じる段階にはないと考えます。

3. 本部会で議論する事項について

(3) そのほかの御意見

- 管理コストは、試算しているのか。
- 末端の漁民には、今回の仕組みの理解度が低く、もっと理解できるような説明が必要でないかと考える。
- 現場の意見を十分に聞かずに大枠を作ってしまった、後から現場の漁業者の意見を聞こうとしても無理がある。まずは、こういった進め方をあらためなければ「漁業者の理解と協力」は得られないのではないかと考える。

参考人からの御意見	御意見の内容
銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	管理コストを試算しているのか？
意見表明者の御意見	御意見の内容
平潟漁業協同組合 代表理事組合長	末端の漁民には、今回の仕組みの理解度が低く、もっと理解出来るような説明が必要でないかと考える。
千葉県漁業協同組合 連合会	国はなぜ現場の意見を十分に聞かずに漁業法を改正してしまったのでしょうか。資源管理だけでなく漁業法改正に関して全般的に言えることですが、現場の意見を十分に聞かずに大枠を作ってしまった、後から現場の漁業者の意見を聞こうとしても無理があります。まずは、こういった進め方をあらためなければ「漁業者の理解と協力」は得られないと考えます。

3. 本部会で議論する事項について

(4) 御意見や論点のまとめ(案)

※検討部会における議論を踏まえ、
論点や意見は追加・修正される見込み

● 漁獲等報告の収集について

- 全国的に漁獲報告システムの整備の目処が立った段階で、TAC管理導入の可否を検討すべき。
- 一部の県では漁獲報告収集体制に問題なし。
- 市場において、銘柄別の仕分けが十分にされないケースも多いため、正確な数量把握が難しい状況ではないか。

● 資源評価について

- どういった手法で評価を行っているのか、漁業者が納得できるように、わかりやすい説明を求める。
- 通年同じ魚種を狙っているわけではなく、季節や来遊に応じて様々な魚種を漁獲しているため、単純に漁獲量のデータが資源状況を推定する指標になるのか疑問。
- ABC算定のための基本指針の変更により、前年度からABCが大幅に減少した魚種については、ステークホルダーに対するきめ細かい説明が必要。

● 資源管理について

- 国に対しては、まずは現場に足を運び、漁業者に対する十分かつ丁寧な説明を行うとともに、現場の漁業者の理解と納得を得た上で、慎重に検討いただきたい。
- 漁法(底びき網)の特性上、混獲による漁獲の回避が難しいため、数量管理等は馴染まない。
- 資源を利用している漁業者間に不公平感が生じないように、等しく取り組む必要あり。
- 「数量管理を実施しない」ことも視野に入れて検討すべき。
- 福島第一原子力発電所事故の影響が未だ残る海域での漁業実態を十分考慮のうえ、資源管理にかかる様々な事項を検討願いたい。
- 大臣管理区分(沖合底びき)と知事管理区分(小型底びき網)とで異なる漁業管理を行うことについて、漁業者の理解を得ることが難しい。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- 混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示すると共に、本資源を数量管理することの必然性について関係漁業者の理解を得た上で検討を進めることが重要かつ不可欠。

4. 今後について

新たな資源管理の検討プロセス



①	資源評価結果の公表	• 令和3(2021)年12月に公表
②	資源管理手法検討部会	• 令和4(2022)年3月に開催 • 参考人等からの意見や論点を整理
③	ステークホルダー会合 (資源管理方針に関する検討会)	• ②で整理された意見や論点を踏まえ、具体的な管理について議論 • 必要に応じ、複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
④	資源管理基本方針の策定	• ③でとりまとめられた内容を基に、資源管理基本方針案を作成 • パブリックコメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定
⑤	管理の開始	

本日はここ